

## 地理関連学会連合第8回総会議事録(案)

開催日時：2006年3月27日 10時30分～12時15分

開催場所：埼玉会館 3B会議室

### 1. 開会の辞

野上 道男 地理関連学会連合議長より。

### 2. 司会の選出

野上道男議長より村山祐司が推薦され、承認された。

### 3. 書記の委嘱

司会より兼子 純（日本地理学会）が推薦され、承認された。

### 4. 議題

#### 【報告事項】

日本学術会議の動向について

野上議長より、日本学術会議の動向について説明がなされた。会員の選出方法が変更になったことが報告され、同会議と学会との関係が希薄になることへの懸念が示された。同会議の30委員会のうち、地理学に関連するものとして地球惑星科学委員会と地域研究委員会が設立されたことが報告された。国際対応について、地球惑星科学委員会の下に国際対応委員会が設けられることが報告された。地域研究委員会には、地域研究基盤整備、国際地域開発研究、地域情報、人文・経済地理と地域教育、人類学の5分科会が設置されるとの情報が紹介された。また、地理学関係で現在選出されている連携会員が紹介された。

自然史学会連合、地球惑星科学連合など同種組織の動向について

野上議長より、日本学術会議の研連廃止に伴う学会連合の動向について報告がなされた。日本学術会議の地球惑星科学委員会に対応するために、日本地球惑星科学連合に地理学関係の学会が加入する動きがあることが紹介された。人文地理学関係では、人文地理学関連学会連携協議会が発足したことが紹介された。研連の廃止により学会連合を組織する気運が高まっているが、これらは任意団体であること、日本学術会議の各委員会や学会連合間との関係が今後問題になるであろうとの認識が示された。

国際地理学連合の最近の動向について

村山副議長より、IGC 地域大会が2006年にブリスベンで開催予定であること、IGUの本大会が2008年チュニス、2012年ボンで開催される予定であることが報告された。IGU 副会長の田邊運営委員（東京地学協会）より、IGU の役員会の動向について報告がなされた。IGU 会長が推進する Cultures and Civilizations for Human Development（CCHD）について説明がなされ、2005年12月にローマでシンポジウムが開催された。2007年4月4日～8日に東京において、IGU の役員会が開催される予定であることが報告された。

地理関連学会連合が主催・共催・後援した（する）行事について

村山副議長より、地理関連学会連合として2005年10月22日・23日に開催された富士学会研究発表会を後援したことが報告された。また、2006年3月27日に「地域多様性と共生社会 - 世界の持続的発展のために -」のテーマで公開シンポジウムを主催することが報告された。同シンポジウムの開催には（財）

福武学術文化振興財団より30万円の助成を受けたことが報告されるとともに、シンポジウムへの参加の呼びかけがなされた。2006年3月28日に日本地理学会春季学術大会において、2つのシンポジウムを共催することが報告された。

ホームページの運営について

村山副議長より、地理関連学会連合のホームページについて、各学会の情報を提供するよう依頼がなされた。

#### 【審議事項】

アジアの地理関連学会との連携強化について（国際シンポジウムの開催）

村山副議長より、9月15日～17日に開催される中国、北京での国際シンポジウム「地理学とアジア発展」について紹介がなされた。地理関連学会連合として同シンポジウムを後援する提案がなされ、異議なく了承された。

国際地理学連合・地域大会（2006年7月、オーストラリア）に対する取り組みについて

2006年7月にブリスベンで開催されるIGC地域大会について、会場にブースを設置して日本の宣伝活動を実施することなど、日本学術会議から依頼があった場合に地理関連学会連合として協力する旨の提案がなされた。同案件について、これまで日本地理学会が対応してきたが、他の学会に対して協力の依頼がなされた。野上議長より、日本のブース運営の責任者として氷見山幸夫氏を推薦する旨の提案がなされ、異議なく了承された。

連合間情報共有ネットワークの構築について

他の関連学会連合及び日本学術会議との関係について、地理関連学会連合は独自の目的で運営するネットワーク型の組織であることが確認されるとともに、今後は連合間で情報交換を密接にすることが重要であることが指摘された。田邊運営委員より、IGUの情報を今後は地理関連学会連合に提供したい旨の発言があった。

地理関連学会連合による「合同大会」の開催について

地理関連学会連合による「合同大会」の開催について、以下の提案があった。「各学会と地理関連学会連合との共催を積極的に推進する。共催大会とする場合、その運営は当該学会に任せる。」

この提案について、大会の開催に対して地理関連学会連合として「共催」と「後援」をどのように使い分けるのかについて質問がなされた。

地理関連学会連合の加入学会の大会に参加する場合に、他の加入学会の会員であれば、非会員であっても参加費を会員と同額にすることや、また発表を可能にすることを検討してみてもどうかとの提案がなされた。上記の提案について、地球惑星科学連合の事例が紹介された。地理関連学会連合に加入する学会間の参加費の問題について、日本地理学会では加入学会の参加者は非会員であっても会員と同額にしているとの発言があった。各学会の参加費について、各学会の状況を調査する必要があるとの意見が出された。

各加入学会が大会を地理関連学会連合と共催したいとの希望があった場合、これを受け入れる旨の提案が出され、異議なく了承された。

要綱の改訂について（学術会議の「登録団体」との関係）

日本学術会議の登録団体との関係から、地理関連学会連合の要綱を一部変更する旨の提案が出された。協議の結果、以下のように変更することが了承された。

第3条．加入：

この連合への加入と脱退は、総会の議による。

#### 第5条．総会：

この連合の意志決定機関として総会をおく。運営加入学会はその学会の意志を代表できる代議員1名を総会に出す。欠席する場合は議長への白紙委任を認める。総会は運営加入学会からその都度派遣される代議員（各1名）と役員（議長・副議長・運営委員）で構成される。賛同学会はオブザーバーを出席させることができる。なお、関連する学術会議会員及び連携会員に出席を要請することができる。総会は年に1回開催する。

#### 第6条．役員の仕事と選出方法：

対外的にこの連合を代表する議長、実務の責任者である副議長、分担して実務にあたる運営加入学会から各1名をこの連合の役員とする。役員と代議員との重複については問わない。運営加入学会は役員の選出が行われる総会に対して、あらかじめ役員候補者を推薦することができる。その役員候補者は代議員と重複していても良いが、その代議員が役員に選出された場合は、その学会は次の総会に代議員1名を補充することができる。選出方法については必要があればさらに細則をもうけることができる。

2006-07年度の役員の選出（議長・副議長・運営委員）について

2006-07年度の役員の選出（議長・副議長・運営委員）について、役員の改選にあたり現在の体制を継続する提案が出され、異議なく了承された。

議長： 野上道男（地理情報システム学会）

副議長： 手塚 章（日本地理学会）

事務局： 日本地理学会

地理関連学会連合の活動促進について

野上議長より、地理関連学会連合の活動促進について、共通の目標として「地域多様性」の概念を広めることへの提案がなされ、異議なく了承された。

#### 5．閉会の辞

野上 道男 地理関連学会連合議長より。

以上

出席者

#### 運営加入学会

地理情報システム学会（野上道男・日本大学）、地理科学学会（岡橋秀典・広島大学）、（社）東京地学協会（田邊 裕・帝京大学）、東北地理学会（日野正輝・東北大学）、日本生気象学会（福岡義隆・立正大学）、日本地形学連合（島津 弘・立正大学）、日本地理教育学会（相澤善雄・都立国立高校）、日本土壌肥料学会（吉永秀一郎・独）森林総合研究所）、（社）日本地理学会（村山祐司・筑波大学、手塚 章・筑波大学）

#### 賛同加入学会

経済地理学会（松原 宏・東京大学）、人文地理学会（秋山元秀・滋賀大学）、水文・水資源学会（近藤昭彦・千葉大学）、地理教育研究会（谷川尚哉・中央学院大学）、日本国際地図学会（若林芳樹・首都大学東京）、日本水文科学学会（高木正博・駒澤大学）、日本地域学会（藤岡明房・立正大学）、日本地下水学会（近藤昭彦・千葉大学）、日本地質学会（齊藤靖二）、日本農業気象学会（山川修治・日本大学）、日本陸水学会（佐藤キ工子・日本大学）、歴史地理学会（松村祝男・日本大学）